

まとめ

今後の活動方針(案)

今回のワークショップやこれまでの検討を踏まえ、次の4点を今後の活動方針(案)としました。

1 遊休資産の有効活用

遊休資産(空き家・空き農地・旧JIA下山支店等)を活用し、地域内外の人が集い、働き、交流できる場をつくらう!

2 移住支援の仕組み検討

自分たちでできる、通学や通院・買い物を手助けする移動手段の仕組みを考え、試験的にやってみよう!

3 地域プロモーション

下山小への越境通学が可能になる特認校指定に向けて、豊かな自然環境や人のあたたかさに触れられる下山ならではの魅力を発信しよう!

4 関係人口創出

地域外の方が定期的に間われるような、共同作業(農業体験、草刈り・清掃活動のイベント化等)の仕掛けを考えよう!

今後に向けて 下山学区対策委員会より

学区の皆様には昨年8月に実施したアンケートや会合等でご協力いただきありがとうございました。私が一年前に下山学区対策委員長を前委員長から引き継ぎました際、任期の3年間はまちづくりを視点に置いた活動をするように言われました。何回もアンケートの回答を読み返し、会合等の話し合いの中から少しずつではありますが、以下のような方向性が見えて参りました。

- 高齢者から子どもまで各町ごとに気軽に立ち寄れる場所の必要性。
- 年齢を問わず思い思いに人が楽しめる自然を生かしたセントラルパークのような公園の必要性。
- 小学校存続のためにも地域一体となって特認校制度を受け入れ協力体制を作っていくことが大切。
- ささゆりバスの存続と使いやすいダイヤ改正の必要性。
- 下山地区の豊かな自然・景観を守りつつ、その自然を生かしたまちづくり。
- 耕作放棄地や空き家の利活用を念頭に、若い人が住みたいと思えるようなまちづくり。
- 農業も含めた地元に向く場所の必要性。

今回のワークショップやこれまでの話し合いの中らいたいた貴重なご意見はしっかりと受け止めて何らかの形で今後まちづくりに生かしていきたいと思えます。

今後に向けて

岡崎市中山間政策課より

岡崎市では、令和3年度から中山間政策課を設置し、中山間地域の活性化施策の推進に取り組んでいます。これからの下山学区をより良くするためには、行政としても支援してまいります。課題解決や魅力を向上させるためには、地域住民の皆様にご協力をお願いいたします。「我がこと」として、主体的に取り組んでいただくことが、何よりも重要になってまいります。今回ワークショップを行い、色々なアイデアを出していただきました。今後は、そのアイデアをもとに、どのように取り組んでいくか、具体的な手法・内容を考えていくこととなります。

よりよい下山学区となるよう、引き続き、積極的な御参加をお願いします。

下山のよりよい未来を考えるワークショップ かわらばん

「発行日」 令和4年2月28日

「お問い合わせ」 岡崎市経済振興部中山間政策課

☎ 0564-233-6206

✉ chusankan@city.okazaki.lg.jp

「企画編集」 NPO法人岡崎まち育てセンターより

「協力」 下山学区対策委員会

下山のよりよい未来を考えるワークショップ かわらばん

1月16日(日)に下山地区体育館にて行われた「下山のよりよい未来を考えるワークショップ」で話し合われた内容や当日の様子をご紹介します。多くの方に参加いただき、ありがとうございました。

かわらばんの内容

1

情報提供
岡崎市中山間地域
活性化計画(案)の説明

2

情報提供
アンケート集計結果
内容紹介

3

ワークショップ報告
グループワーク1
「下山学区の未来の姿を
考えよう」

5

ワークショップ報告
グループワーク2
「どうする?」
旧JIA下山支店

7

まとめ
今後の活動方針(案)
今後に向けて
下山学区対策委員会より
岡崎市中山間政策課より

開催概要

下山のよりよい未来を考えるワークショップ
【日時】 令和4年1月16日(日) 9時半~11時40分
【会場】 下山地区体育館
【参加者】 約30名(途中退出者含む)
【主催】 下山学区対策委員会
【共催】 岡崎市経済振興部中山間政策課
【運営】 NPO法人岡崎まち育てセンター・りた

情報提供

岡崎市中山間地域

活性化計画(案)の説明

岡崎市中山間政策課から現在策定中の「岡崎市中山間地域活性化計画(案)」について説明しました。

1 岡崎市中山間地域活性化計画とは

2021年4月、岡崎市は「中山間政策課」を創設しました。同課では、若年層の人口流出や少子高齢化に伴う地域活動や農林業の担い手不足等の課題に直面する市内中山間地域を、持続可能な魅力ある地域とするための、「活性化計画」策定を進めています(2022年2/7から3/7までパブリックコメント実施)。活性化計画の基本理念(30年後を見据えた今後の目指す方向性)として『住み慣れた地域で暮らし続けるための仕組みづくり』を掲げ、「くらし」「しごと」「交流」の仕組みづくりを進めます。また、地域課題の解決に向けて、地域が主体となってどのような取組を行っていくかを定めた「地区別計画」の作成を推奨しています。

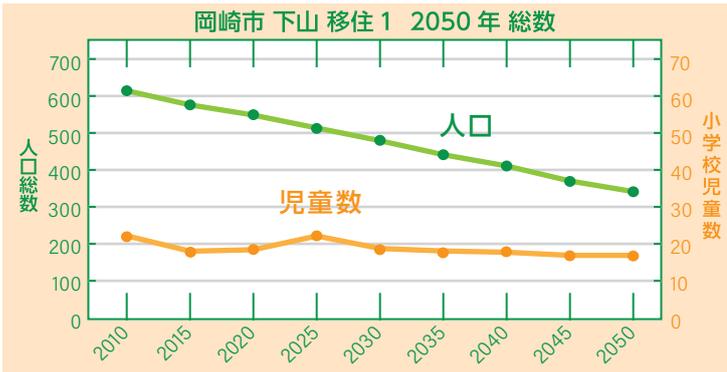
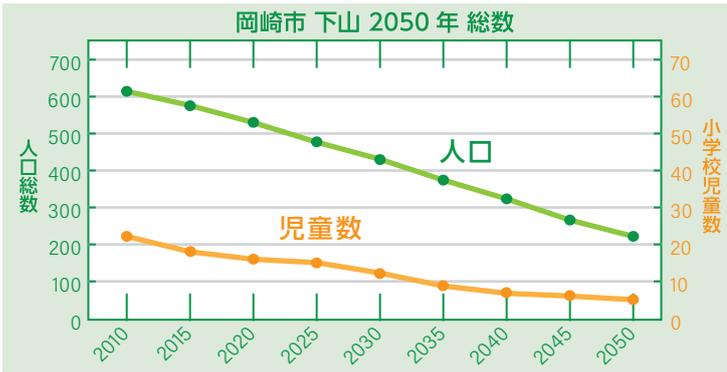
※オクオカ：岡崎市の中山間地域を指す愛称(岡崎の奥座敷)
 ※イノベーション：活用可能な地域資源を発掘し、磨き上げた上で、これまでにない他分野と組み合わせる取組刷新、革新、新機軸、技術革新、新市場・新資源の開拓、新しい経営組織の形成などを含む概念

2 地区別計画作成に向けた下山区の現状把握

a 「下山区の人口推計」

現在の人口増減傾向が続いた場合

子育て世代が1年に1世帯移住してきた場合



(名古屋大学大学院附属持続的共発展教育研究センター提供小地域ごとの簡易人口推計ツールを使用)

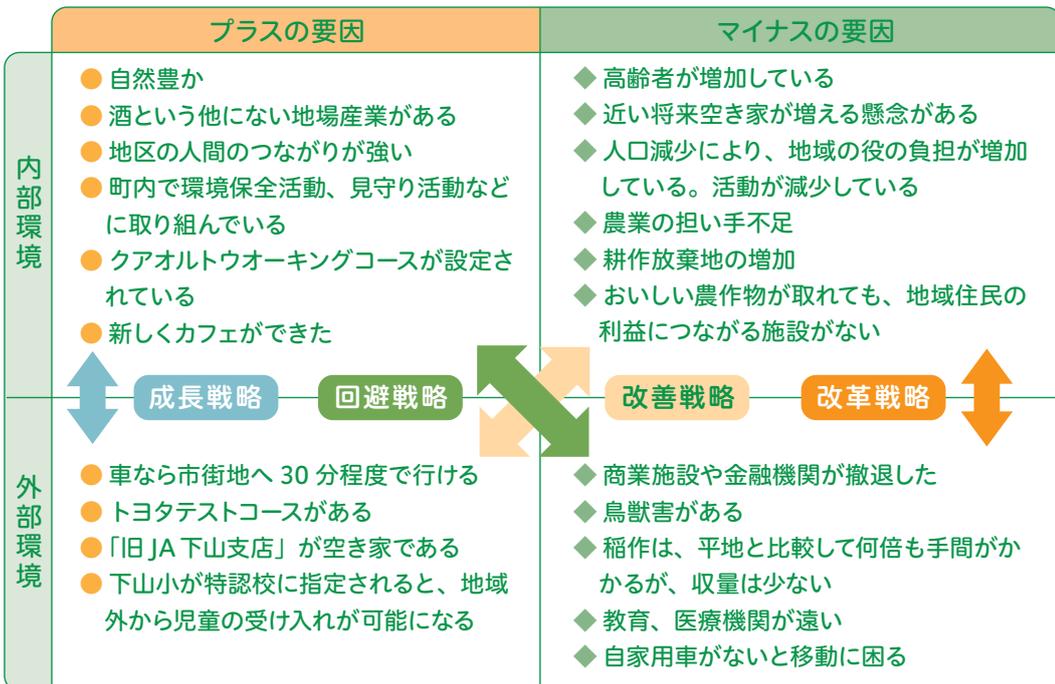
2050年までの人口推計では、現在の人口増減傾向が続いた場合、2050年には人口が55%減ることが予想されます。仮に子育て世代が1年に1世帯移住してくれば、児童数を維持することが可能になります。



b 「下山区のSWOT分析」

地域の強みや機会を活かして、課題を克服する戦略を検討するために下山区の全住民アンケートやヒアリング等から得られた意見をSWOT分析のフレームを用いて整理しました。

※SWOT分析：内部環境および外部環境それぞれで「プラスの要因」と「マイナスの要因」(SWOT強み、弱み、機会、脅威)に整理し、4つを組み合わせることで課題克服のための戦略を練る手法



情報提供

アンケート
集計結果内容紹介

2021年8月に実施した「下山学区のよりよい未来のためのアンケート」について、当日発表した内容から、具体的な地域課題や今後の地区別計画検討の参考になる設問を抜粋してご紹介します。なお、アンケート結果の詳細については、各戸に配布した「概要版」、またはりんぼ館にて「全体版」をご覧ください。

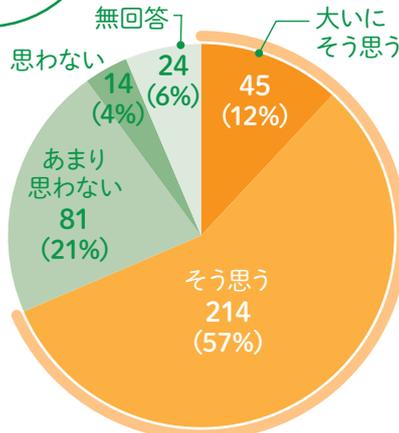


アンケート概要

【実施期間】2021年8月2日(月)～23日(月)
【主催】下山学区総代会、下山学区社会教育委員会、下山学区対策委員会
【対象】下山学区にお住いの小学生以上の方
【回収率】83.4% (378名/453名)

1 この下山が好きで満足している

69%が、「好きで満足している」と回答



2 下山が不便に思ったり、嫌な(改善してほしい)点

買い物をするとところが多い	12	22	15	22	26	12	81
地区の役員、学校の役員がすぐに回ってくる	10	17	12	21	29	6	141
中学校が遠い	9	17	5	19	27	7	140
病院が遠い	7	17	8	12	18	7	127
草刈りなどのお役が多い	7	12	5	18	28	7	124
園児、児童、生徒数が少ない	3	16	7	14	23	8	113
コンビニがない	5	10	14	16	10	48	104
町費等が高い	6	5	17	13	2	54	102
高校が近くにない	8	11	5	11	19	7	97
お店や飲食店・カフェ等が近くにない	8	15	6	12	19	8	96
その他	9	8	11	11	8	37	85
近くに働く場所がない	9	11	4	8	28	63	

3 この地域にあったらいいと思うもの(複数回答可)

使いやすいコミュニティバス	8	17	15	16	25	7	55
小学校中学校の送迎バス(土日の部活も含む→有償)	6	9	6	13	18	8	35
予約制デマンドバス	6	9	4	7	23	11	29
コンビニエンスストア	3	8	4	11	14	4	43
診療所	5	12	4	7	10	3	44
空き家や空き店舗をリニューアルし、地域外の人立ち寄り、交流できる場所やお店	3	5	7	7	17	8	34
定期的に来てもらえる食料品、生活必需品の販売車(次回注文も受注できるシステム)	5	8	6	4	18	4	33
公園とか広場	6	3	7	14	5	35	71
金融機関	12	3	6	10	3	22	58
学区内で雇用してもらえる会社	8	8	2	5	10	3	20
その他	6	7	11	4	3	24	55
世代を超えて交流できる場所	8	3	3	11	6	23	54
定期的に住診してくれる有償移動式医療	5	8	3	8	6	5	50
住民で支える地域支援型の予約制タクシー	3	8	12	2	16	45	

4 住んでいて楽しい地区にするためにどのような協力ができますか?(一部抜粋)

ゴミひろいなどは今後も参加できる限り参加したい。情報発信などでも協力できれば。(20代・女性)

今はまだ発信していないが、地域に根差した食料品店になっていきたい。現在、醤油、味噌、洗濯石鹸など日用品は扱っています。(30代・男性)

他の地域から来て下山地区に住んでいることから、この地区に住むことを検討している人たちに自分の経験を伝えることができると思います。(40代・男性)

町に住んでいる人に、のどかな場所に住むのも良いことも伝えていきたい。(30代・男性)

仕事を通じて下山の魅力を発信し続け、年間を通じて人々がこの地に訪れる仕組みを作る。(30代・女性)

ある程度ある(ウォーキング)や山桜の会のイベントに外から来る人を増やせるように紹介する。(30代・女性)

地区に田畑の荒れ地があるの町の方から希望者を募って田や畑を作ってほしい。一緒に作業をする。(70代・女性)

下山地区の潜在能力はまだまだ活かされていなくて、住民の協力で地区としての魅力としてアピールする。(60代・男性)

5 将来、下山がどんな町になってほしいですか?(一部抜粋)

昔のように外を歩けば子どもの声の間聞こえる町にしたい。また、事業を通じてこの地域を魅力的にすることで、この地域を訪れる人を増やし、最終的には移住したいと思える場所づくりをしていきたい。規模は小さくても住民同士が助け合い、小学校の特認制度導入により学びたい子どもが都市部から訪れ、若者向けにテラワークやシェアオフィスとしての場が開かれていく。そんな田舎のモデル地域となるような場所にしてほしい。(30代・女性)

ここで育った子どもたち、立ち寄った人、ビジネス面、そして海外からも一目置かれる地域にしたい。(30代男性)

私の周り(小学校のお母さん達)では色々なことを話したり協力したりできる仲間がたくさんいて、とてもありがたいし心強いです。こういう関係性をもっと広く多くして下山学区誰とでも友好な関係にしたい。そしてみんな色々な意見を出し合ったり、協力して少しずつでもみんなの暮らしが良いものであってほしい。(30代女性)

地域課題をお助け隊がサポート。子どもたちが誇りを持つことができる下山へ

Cグループでは5つのテーマの内、「交通問題」「担い手不足」の2点について多くの意見が出されました。参加者から、それぞれのテーマについて満遍なく課題が出される中、下山＝不便なところという前提がされてしまっているが、それは「親の擦り込みもあるのでは？」不便だと言っていると思うけれど、まあ等といった子ども達への影響を心配する声がありました。そんな中、「子どもが出ていく」「人が少ない」といった「担い手不足の問題」に対して、自らが生活のお困りごとに対して「お助け隊」のようなことができないかといった提案が出されました。まちへの意識を変えていくことで、将来的に子どもたちが自分たちが暮らしたまちに対して誇りを持つことができることを目指していきたいという思いが共有されました。



改善するために自分たちでできること

【遊休資産】
 ・田舎に住みたい人に向けて、SNS (Instagram, YouTube等) でPRする
 ・TVなどメディアの力を活用する

【担い手不足】
 ・フアオルトウォーキングに来た人に寄ってもらう
 ・自転車乗りの人を巻き込む
 ・生活のお困りごと (お助け隊)

【遊休資産】
 ・送り迎えを分担…
 ・ワゴン車をバス代わりにする

改善するために自分たちでできること

【遊休資産】
 ・特認校制度等に合わせた空き家を限定的に貸し出し (試しに住む)
 ・休耕地の有効活用 (キャンプ場)、農地山林活用時の手続きの簡素化
 ・体験型 (ワーケーションできる) 古民家の宿を OPEN 準備中
 ・空き家をリノベーション事業に活用

【その他】
 ・CSR 活動等を絡めて企業を誘致する
 ・自然にふれる体験・仕組みづくり
 ・フアオルトの道をもっと魅力的に (休憩所等の整備)

【担い手不足】
 ・若い人が積極的に働きたい場をつくる
 ・米作りを手伝い、それらの対価 (報酬) として、育てたお米をもらうという仕組みをつくる

【教育環境】
 ・特認校に指定された場合のアピールを学校だけにせず住民と一体となっていく
 ・バス停に掲示してある小学校の通信を他地区の人に見てもらい (特認校に向けて)
 ・下山小学校の特色ある教育を SNS 等で情報発信する、山里の環境を生かした学びの場をつくる (農業・科学・アート…等)

空き家・空き農地を活用して、下山の特色を活かした体験教育や働く場をつくりたい

Aグループでは5つのテーマの内、「遊休資産」「教育環境」「その他」の3点について活発な意見が出されました。「山の管理」ができない、「どんどん空き家が増えていく」といった課題に対して、「特認校制度に合わせて空き家を限定的に貸し出す」や「休耕地の有効活用 (キャンプ場)」等といった遊休資産を活用した提案が出されました。また、「子どもの数が毎年減少しているのでは」と「子どもの数を毎年減少しているのでは」と「他からの移住等を多くしたい」と「小学校や保育園での活動 (特色ある部分) がもう少し他地区に知られて欲しい」等の意見から、「特認校に指定された場合のアピールを学校だけにせず住民と一体となっていく」「下山小学校の特色ある教育を SNS 等で情報発信する」等といった改善提案につながりました。それらから、下山学区の「特色を活かして」田畑からの収穫体験など「良質な教育を受けられる」下山の強みを生かした教育モデルを外に向けて発信していくという方針が出されました。



グループワーク1 下山学区の未来の姿を考えよう!

グループワーク1では、下山学区がこうなっていきたい!と思う将来の姿について意見交換を行いました。与えられた5つのテーマ (遊休資産・交通問題・教育環境・担い手不足・その他) ごとに、「とくに課題だ」と思っている「改善するために自分たちができること」と「将来こうなっていきたい」との順に意見を出し合い、それらについてグループごとに話し合いました。本紙では各グループで話された内容のまとめと、そこで出された意見 (一部の意見を抜粋) を紹介します。

改善するために自分たちでできること

【交通問題】
 ・地域の人と乗り合いで行く
 ・同じ習い事の人がいれば送迎を分担する
 ・ささゆりバスの運営委員会に入って意見を聞く・言う
 ・車の運転ができるのを楽しみ (嬉しい) と考える

【その他】
 ・駆除する人を育成する。
 ・ハンティングの会をつくる

改善するために自分たちでできること

【担い手不足】
 ・草刈りをイベントにする
 ・発信していく。村の事を企画していく。イベント・インスタなど
 ・街の人々を呼んで草刈り・伐採イベントをやる

【遊休資産】
 ・若い人たち、子育て期間に10~20年ぐらい短期移住してもらう、空き家のリフォーム、空き家の貸し出し、お世話する人
 ・集会に積極的に参加する
 ・声をあげつづける。集会に参加
 ・問題意識をもって話し合う
 ・家族や友人と協力していく

【その他】
 買い出しは週に一度にまとめて、まちなかのスーパーやネットで買う

地域の課題や住民の負担を「おもしろさ」で解決。子どもも大人も一緒になって考える下山へ

Bグループでは「担い手不足」「その他」について多くの意見が出されました。このグループでは地域の課題に対して「集会に積極的に参加する」「集会に参加し声をあげつづける」「家族や友人と協力していく」等のような、家族や友人と一緒に考えていく方向性が出てきました。この地域への高い協力的意識を確認し合うことができた。その中で、「子どもが少ない」や「草刈りなどの役が多い」等といった少子高齢化や担い手不足の課題に対し、「街の人々を呼んで草刈り・伐採イベントをやる」「常におもしろさを考えて実現していく」等といった発想の転換により、地域課題や住民の負担を楽しみながら軽減していくという未来に向けた前向きな改善案が示されました。これらには、子どもも大人も一緒になって下山学区の未来を考えていきたいという思いが込められています。



多様な生き物と調和して暮らす「下山らしさ」を目指して

Dグループでは5つのテーマの内、「交通問題」「教育環境」「その他」の3点について活発な意見が出されました。「ささゆりバスの本数が少ない」「車がないと不便」「子どもが習い事へ通えない」等といった課題意識から、子どもたちの送迎には「地域の人と乗り合いで行く」「バス委員会に入って意見を聞く・言う」等といったアイデアが出されました。また「サルが畑を荒らして困る」「イノシシによる田んぼ荒らし」等の課題に対し、サルやイノシシを害として扱うのではなく、下山に共生している動物達という発想をしてみることも大切なのではないかという意見から「動物と上手な付き合いのできる状況になってほしい」「シブヒ文化ができるといいな」等といった課題を下山の魅力としてとらえなおす前向きな将来像に向けた提案が出されました。



【教育環境】
 若者用 (小学生のいる) アパートをつくる

【遊休資産】
 空き家を貸したい人と空き家を借りたい人をつなぐシステムをつくる

【担い手不足】
 ・考え方をえて、自分が町・学区の運営について考えてみる
 ・役や会などはイベントと思えば楽しむ!

活用イメージ 11

下山の魅力味わう 体験型宿泊施設



下山の魅力を経験してもらったための施設です。米作りや野菜作り等の農業体験や五平餅づくり、クアオルトウォーキング等を体験することができます。施設内には宿泊スペースもあり、宿泊者は下山でつくられた、お酒や卵、お米、野菜などの地域の料理を楽しむことができます。

活用イメージ 9

卵・酒・米・野菜を活かした「卵かけご飯」専門店



下山でつくられたお米と卵をつかった「卵かけご飯」の専門店。他にも、地元でとれた野菜や地域の方々がつくった絶品漬物、周辺でとれたジビエ料理、お酒等を楽しむことができます。シンプルに下山の魅力を感じ、地域の高齢者の働き場所としての役割も担っています。

活用イメージ 12

中山間地域を元気にする サテライトオフィス



中山間地域の活性化に取り組む行政職員やまちづくり活動に関わる方々のサテライトオフィス。二拠点生活を通じて、地域の特色や課題を実感でき、地域住民と交流機会を持つことができます。まちづくりに関心のある若手職員の研修の場としても利用されています。

活用イメージ 10

下山活性ステーション 観光案内所



下山への来訪者が遊べる場所や食事ができる場所等を探すために立ち寄る玄関口。施設内では、子ども達が買い物できたり、ジビエをつかった料理を食べることができ、山間部を周回するサイクリストの休憩所としても使われ、季節を通して多くの方々に利用されています。

活用イメージ 7

学びと交流のための拠点



学びや交流を楽しみたい地域の方々が開かれた場所。週末には学生や休日を利用して勉強する社会人の方々が利用しています。静かに勉強ができる学習室（個室）や利用者同士で会話を楽しむことができます。受験を控えた中学生以上の学生に重宝されています。

活用イメージ 5

サッカー、野球、陸上等の合宿施設



サッカーや野球、陸上など様々なスポーツの合宿施設。施設を拠点に小学校のグラウンドや周辺の散策路を活用して、それぞれのスポーツに合ったトレーニングを行うことができます。下山の魅力発信スペースもあり、下山に訪れた方に地域の魅力を伝える役割を担っています。

グループワーク2 「どうする?旧JA下山支店」

※提案はワークショップで参加者から出された「活用イメージ」であり、実現を前提としているものではありません。 ※イメージの紹介文は参加者が作成した活用イメージシートをもとに作文しています。

下山学区の目指したい未来の姿の実現に向けた具体的な手立ての一つとして「旧JA下山支店」の活用方法について検討を行いました。参加者それぞれで実現したい施設の利用イメージを「どのような使われ方をする場所か」「いつ（時間）や季節に使われるか」「誰（どのような人）が利用する場所か」等の項目に沿って考えながら具体化をはかりました。本紙では参加者から示された活用イメージを整理したものを紹介します。

活用イメージ 8

人が集まり、田舎を楽しめる道の駅



下山の魅力をふんだんに楽しむことができる道の駅。下山の特産品の紹介ブースや下山でつくられた野菜やお米を販売し、地域の農家を発展させる役割を担っています。サイクリングの休憩所としても利用され、地域内外の人がふらっと立ち寄り、毎日多くの人で賑わっています。

活用イメージ 6

里山とまちをつなぐ 下山の文化交流拠点



地域内外の様々な人達が気軽に立ち寄ることができる交流拠点。施設内では里山の大切さ（まちと山の関係・自然環境や下山に生息する動植物等）を伝えていく場として、四季に合わせた様々な展示や体験プログラムを実施し、下山の暮らしや里山の魅力を発信しています。

活用イメージ 4

下山複合スペシャル施設



下山での暮らしのお困りごとを解決することができる場所。日用品を購入でき、学習サロン、クアオルトを絡めたデイサービス、ジム、コインランドリー等、幅広い世代の要望に応える機能を有しています。地域の高齢者の働く場所として雇用も生み出しています。

活用イメージ 1

気軽に立ち寄れる 地域交流の場



子どもから大人まで幅広い世代の方々気軽に立ち寄ることができる交流拠点。子ども食堂や地域材でつくられた木のおもちや木製アスレチック、誰でも弾けるピアノや楽器等が置いてあり、地域内外の子どもや親が集う場になっています。

活用イメージ 3

地域住民が日替わりでおもてなしする「ほぼ日カフェ」



日替わりで無農産野菜の販売や家で食べきれない野菜のおすそ分け、シェアキッチンでは地域の方々によるワークショップ等も行われます。他にもコミュニティカフェや空き家等から引き取られた古道具や家具等を販売するフリーマーケット等も行われています。

活用イメージ 2

クアオルトを取り入れた 健康促進のための拠点



クアオルトを取り入れた健康促進のための場所。ここを起点に下山の散策コース巡りや、施設内のジムでも体を動かすことができます。運動後には下山で作られた炭をつかったサウナを楽しむことができ、平日は地域の高齢者を中心に、週末には地域外の方々に利用されています。

